

視覚吸引作用に気をつけよう

～重大事故を引き起こす危険性がある現象～

■「視覚吸引作用」とは・・・危険なものほど凝視してしまう現象

・人間の視覚は意識と深く結び付いていて、興味を引かれるものや危険を感じるものが目に入ると、それに集中してしまう傾向があります。

・例えば、「この料理はすごくおいしそうだ」、「あの犬はかわそう」、「すぐ先が通行止めだ」など、良くも悪くも強く意識が向く対象に対しては視線が集中してしまいます。これを「視覚吸引作用」と言います。自動車を運転しているときも、同様の視覚吸引作用が起こることがあります。

■「視覚吸引作用」で起こりうる交通事故

《ケース①》

斜め前方の大きなトラックが車線変更をしてくると、トラックの点滅するウインカーから目が離せなくなり、無意識にトラックへ近づいてしまうことがあります。ウインカーの他にもナンバープレートや車体に張ってあるステッカーの場合もあります。

一つのものに集中するあまり、状況判断ができなくなるのです。

《ケース②》

大型車の横を通過する際、大きな車体やタイヤを見て「巻き込まれたら大変だ」と意識することで視覚吸引作用が起こり、目が離せなくなります。見続けることで、ハンドルごと大型車の方へ引き寄せられた結果、衝突事故に至ります。

《ケース③》

壁や木が接近しているとき「危ない」と危険を感じつつも視覚吸引作用が起こり、そのまま対象物を凝視した結果、ハンドルを左右に切って避ける行動を怠り、対象物に衝突してしまうのです。

■「視覚吸引作用」の対処法

- 何かを一点に見続けている自覚があれば、即座に視線を外してください。
- 無意識に凝視している場合もあるため、運転中は周りに気を配って視線を動かすようにすると安全です。
- 凝視してしまう対象は、車内にもあります。ダッシュボードの上から落ちそうな荷物など運転の妨げになるようなものは、運転する前に片づけておきましょう。

